

22062322

JAPANESE B – HIGHER LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS B – NIVEAU SUPÉRIEUR – ÉPREUVE 1
JAPONÉS B – NIVEL SUPERIOR – PRUEBA 1

Monday 15 May 2006 (morning)
Lundi 15 mai 2006 (matin)
Lunes 15 de mayo de 2006 (mañana)

1 h 30 m

TEXT BOOKLET – INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet contains all of the texts required for Paper 1.
- Answer the questions in the Question and Answer Booklet provided.

LIVRET DE TEXTES – INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas ce livret avant d'y être autorisé(e).
- Ce livret contient tous les textes nécessaires à l'épreuve 1.
- Répondez à toutes les questions dans le livret de questions et réponses fourni.

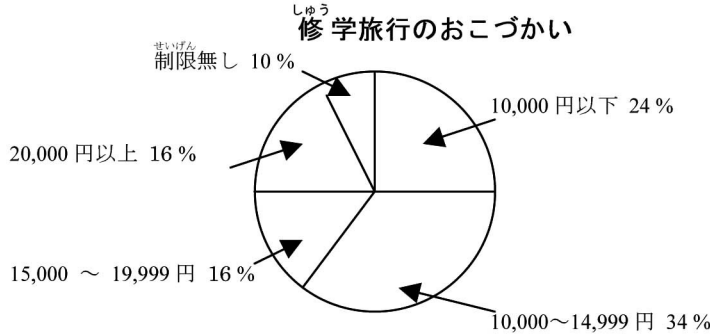
CUADERNO DE TEXTOS – INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra este cuaderno hasta que se lo autoricen.
- Este cuaderno contiene todos los textos para la Prueba 1.
- Conteste todas las preguntas en el cuaderno de preguntas y respuestas.

第一部

問題 A 地方によってかなり違うね

修学旅行



例

修学旅行シーズンの5月。京都や奈良、東京で制服すがたのグループが目立つ。しかし、全国的に見れば、九州や四国では秋に行う学校も多く、行き先も地方によって異なる。日本修学旅行協会が行った調査をもとに、全国の修学旅行事情を探った。

4

調査は国公立の 2373 校にたずね、1389 校から回答をえた。旅行の実施率は 97% で、今年実施しなかった学校も 2, 3 年に 1 回、複数学年をまとめて行うと答えた。

5

修学旅行の時期は、1 学期に集中しているが、中国・四国・九州地方の学校では 2 学期も多い。3 学期の修学旅行はスキーを行うためと考えられている。

6

修学旅行の一部を自由行動にする学校の数は前年に比べ 22.7%、配当時間は 3.8 時間のびた。

7

自主見学が増えたため、見学場所が東京都内、京都市内などに広がっている。しかし、見学・学習場所の上位は、東京ディズニーランド、京都・奈良の寺社、国会議事堂で、前年に比べても変化はない。

8

日本修学旅行協会調査研究部長の内田さんは調査結果について「学校生活はたしかに忙しいけれども、今後も有意義な修学旅行をしてほしい。」と話していた。

問題 B

ボランティアを始めませんか

茨城県のある中学校では去年3月、全国で初めて中学生の3級ヘルパーが39人も誕生しました。町の社会福祉協議会(社協)と学校が協力して講座を開講し、今年3月までに99人が資格を取りました。

3級ヘルパーの資格を取るには、50時間(うち8時間は実習)の講座を終了しなければなりません。学校では総合学習の時間の一部と土曜、日曜、夏休み、冬休みを使います。講師は社協の職員や医者にお願いし、実習は近くの老人ホームで行います。

資格を取った中学生達は社協にボランティア登録をし、町民運動会などの行事で車いすや歩行の手助けなどをします。また、医師や何人かのヘルパーがいっしょに、毎日の生活でサポートが必要な人を見まもる「ケアチーム」のメンバーになり、一人暮らしのお年よりの家を訪問している中学生もいます。「人の気持ちを考えて行動するのは思ったより大変ですね。将来のゆめがかんご師なので、少しでも近づければいいと思います。」と、ボランティアをしている中学生の一人、山下さんは話していました。

滋賀県の環境保護団体で最年少でボランティア活動にさんかする中学生がいます。原田さんです。一年ほど前、「自由な時間を大切に、少しでも社会の役に立ちたい」と市役所の窓口をおとずれたのがきっかけです。市役所からしょうかいされた環境保護団体でボランティア活動を始めました。この団体はメンバーが約400人いて、地元の環境保護に取り組み、近くの川の水質調査を行ったりしています。

原田さんは週に3、4日ほど事務局に出むき、電話の応対や書類の作成を手伝ったりしています。原田さんは子どもむけのイベントのアイデアを提案するなど、中学生としてできる活動に力を入れています。「ボランティアというと、『大変な事』というイメージがあった。でも、活動を始めてからは、いっしょにささえ合っていく、といういんしょうに変わっていった」と話していました。

「あなたは自分のした事をいやな事だっと思っっていますか。」

もう一度そう先生が静かにおっしゃった時には、ぼくはもうたまりませんでした。ぶるぶるとふるえてしかたがないくちびるを、かみしめてもかみしめても泣きごえが出て、目からはなみだがむやみに流れてくるのです。もう先生にだかれたまま死んでしまいたいような心持ちになってしまいました。〈中略〉

「そんなに悲しい顔をしないでよろしい。もうみんなは帰ってしまいましたから、あなたもお帰りなさい。そして明日はどんな事があっても学校に来なければいけませんよ。あなたの顔を見ないと私は悲しく思いますよ。きつとですよ。」

そう言っ先生は僕のかばんの中にそつとぶどうの房ぶさを入れてくださいました。僕はいつものように海岸がん通りを、海をながめたりふねをながめたりしながら、つまらなく家に帰りました。そしてぶどうをおいしく食べてしまいました。

けれども次の日が来ると僕はなかなか学校に行く気にはなれませんでした。〈中略〉けれども先生の別れの時の言葉ことばを思い出すと、僕は先生の顔だけはなんといつても見たくてしかたがありませんでした。僕が行かなかつたら先生はきつと悲しく思われるに違いない。もう一度先生のやさしい目で見られたい。ただその一事があるばかりで僕は学校の門をくぐりました。

そうしたらどうでしょう、まず第一に待ちきつていたようにジムが飛んで来て、僕の手をにぎってくれました。そして昨日の事なんか忘れてしまったように、親切に僕の手をひいて、どぎまぎしている僕を先生の部屋に連れて行くのです。〈中略〉

先生はにこにこしながら僕に

「昨日のぶどうはおいしかったの。」と問われました。僕は顔を真っ赤にして「ええ」と白状はくじょうするよりしかたがありませんでした。〈中略〉

ぼくはその時から前より少しい子になり、少しはにかみ屋でなくなったようです。

それにしても、僕の大好きなあのおい先生はどこに行かれたでしょう。もう二度とは会えないと知りながら、僕は今でもあの先生がいたらなあと思えます。秋になるといつでもぶどうの房ぶさはむらさきに色づいて美しく粉こなをふきますけれども、それを受けた大理石のような白い美しい手はどこにも見つかりません。

問題 C

一房のぶどう

ふさ

有島武郎
たけお

(小学校の思い出話です。)

やがて先生の部屋の とをジムがノックしました。ノックするとは、入ってもいいかと とをたたくことなのです。中からは やさしく「お入り」と言う先生のこえが聞こえました。僕はその部屋に入る時ほどこいやだと 思ったことはまたありません。

5 何か書き物をしていた先生は、どやどやと入って来た僕達を見ると、少しおどろいたようでした。が、女のくせに男のように くびの所でぶつりと切ったかみのけを右の手でなであげながら、いつものとおりのやさしい顔をこちらにむけて、ちよつと くびをかしたただけで、何のご用というふうをなさいました。そうするとよくできる大きな子が前に出て、僕がジムの絵の具を取った事をくわしく先生に言いつけました。先生は少しくもった顔つきをしてまじめにみんなの顔や、半分泣きかかっている僕の顔を見比べていなさいましたが、僕に「それは本当ですか。」と聞かれました。本当なんだけれども、僕がそんないやなやつだという事を、どうしても僕の好きな先生に知られるのがつらかったです。だから僕は答える代わりに本当に泣き出してしまいました。

10 先生はしばらく僕を見つめていましたが、やがて生徒達にむかって静かに「もう行ってもようございませう」と言って、みんなを帰してしまわれました。生徒達は少し物足らなそうにどやどやと下に下りて行ってしまいました。

15 先生は少しの間何とも言わずに、僕の方もむかずに、自分の手のつめを見つめていましたが、やがて静かに立って来て、僕のかたの所をだきすくめるようにして「絵の具はもう返しましたか。」と小さなこえでおっしゃいました。僕は返した事をしっかり先生に知ってもらいたかったので深々とうなずいて見せました。

第二部

運転士さんが作った電車マナービデオ

電車に乗っている時、「ゆかに座りこんでおしゃべり」「けいたい電話で話す」などの光景を見かけたことはありませんか。このようなめいわく行動をなくすために、鉄道会社の運転士が、電車を利用する時のマナーをしょうかいしたビデオを作りました。ビデオは京王電鉄（本社東京都多摩市）によって作られました。本当の運転士さんが作った交通安全教室ビデオ、16分の作品です。

運転士がえんじる「わるお君」と「だめお君」が登場。二人はお年よりや体が不自由な人が立っていても優先席をゆずらない、ごみをすてるなど、めいわくな行動をして、「何がいけないのか」を考える内容になっています。

京王電鉄では1994年から東京や神奈川の学校で「交通安全教室」を開いて、遮断機が下りているふみ切りには入らない、電車内ではさわがないなどの注意事項をよびかけてきました。運転士が教材に使っていたビデオの評判が良かったことから、作り直しました。今年3月から約500校に無料で配布する予定です。希望する学校に出むき、講義もしました。

鉄道営業部営業企画課課長の橋木正明さんは「お客さんに気持ちよく乗っていただくためにはみなさんに『いけない事』を意識していただいて、協力していただくことです」と話していました。

ビデオは学校単位での申しこみを受付けます。問い合わせは京王電鉄営業企画課(042-337-3222)へ。